

# 田中康夫

今月の憂いゴト

アメリカ大統領選から、ヨーロッパの移民危機、安倍首相の70年談話、戦争終結の逸機まで。

横浜港の大きな橋国際客船ターミナルを訪れた田中・浅田両氏。穏やかな港の風景を楽しみ、大さん橋の設計デザインを評価しつつ、話はやがて新国立競技場の見直し問題へ。穏やかだった気分も怪しい雲行きに……。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kenjiro Matsui

# 浅田彰



# 憂国呆談

season 2 VOLUME 64

November 2015 SOTOKOTO 132

## 競技場も再コンペ？ 東京オリンピックピクは前途多難。

浅田 横浜港の大きな橋国際客船ターミナルは、国際コンペで選ばれたアレハンドロ・ザエラ・ポロ&ファッシド・ムサヴィイの設計。審査員だった磯崎新が推したんだろ。ザハ・ハデイドにも似た流体力学的デザインだけど、木材を使い、屋上に芝生を敷き詰めたことで、海の上に丘ができたような面白い感じになってると思うよ。

田中 イサム・ノグチが基本設計を手掛けた札幌のモエレ沼公園と似通った哲学を感じさせる傑作だね。

浅田 ザハの新国立競技場だって、コンパクトに設計し直し、こんなふうに木を多用してつければ、CGのイメージとは違ってくるはず。国産材を使えば需要も広がるだろうし。

田中 そうだよ。競技場や皇居の周囲も鋼鉄製と同じ強度の木製ガイドレールを奥多摩の間伐材で設置すればいい。それにしても、暑さ対策には甲子園名物のかちわり氷だってあるから、多少我慢してもらっても費用の有効活用を図ると胸を張って、冷房設備の中止で45億円節約し、代わりに10億円で救護施設を設置するなんて、民主党の事業仕分けを嗤えないよ(苦笑)。

浅田 改めてコンペが行われることになり、ザハと日建設計のチームも参加の意向だけでなく、ゼネコンと組めるかどうか。本当は、すでにザハを選んだんだから彼女に再設計してもらえばすんだ話なのに。

田中 そうすれば訴訟にもならないだろうしね。コントラクトII契約が何かってことを日本はわかっていない。「設計条件も変わったので、作るものも別物になる。デザイ

ンありきではないので、前回のものにこだわることはない」とザハ・ハデイド事務所は語ってるから一波乱ありそう。

それはそうと、来年のリオデジャネイロ五輪の開会式は日本時間で8月6日の午前6時から始まるらしい。開会式は2時間では終わらないでしょ。皆さまのNHKは、午前8時からの広島平和記念式典の時間帯はどちらを優先中継するんだろう。実は2020年の東京五輪の開会式も長崎原爆投下の8月9日。だったら日程を少しずらして終戦記念日の15日に行ったらほうがいい。あるいは、五輪が平和の祭典だというなら、リオ同様、8月6日に開会式を行って平和を謳えばいいのに。

## 左派政党が急速に躍進中の、ヨーロッパはどこへ行く？

浅田 アメリカ大統領選で共和党候補の暴言王ドナルド・トランプが支持率調査で1位に。共和党も落ちるところまで落ちたな。民主党ではヒラリー・クリントンが本命だけど、どうも伸び悩んでる。

そもそも、トニー・ブレア英元首相、ビル・クリントン米元大統領、ゲアハルト・シュレーダー元独首相らは、旧来の保守対立を超える「第三の道」路線で政権をとったものの、「第三の道」とは結局は「第一の道」でしかなかった。新自由主義を推進しつつ、セーフティネットを多少痛みを和らげ、人種問題や女性問題なんかでリベラル色を強めてごまかす程度。クリントン夫妻よりは左寄りのバラク・オバマでさえ政権獲得後はそうだったし、ヒラリーもビルの路線に戻るに決まってる。そうすると、経済格差が増すばかりの現在、彼ら



よりも「まっとうな左翼」が支持を集めるようになるわけね。民主党系で言えばバーニー・サンダース上院議員。ちなみにイギリス労働党でも左派のジェレミー・コービンが党首に。ギリシャで左派のスイリザが政権を取ったのに続き、スペインでも左派のポデモスが伸びてる。それは当然の流れなんだけど、そもそも米民主党や英労働党が選挙に勝つためには「第三の道」しかなかったのも事実なんで、難しいところだね。

田中 上から目線の知性主義は勘弁だけど、反知性主義で何が悪いと居直る傾向も困ったもの。無知蒙昧で構わぬというのは、自分は読書家だったくせに下放運動の文化大革命を主導した毛沢東と同じで危険だ。本来の「反知性主義」は、知性や理性だけでなく感情や感覚も人間の思考や行動を決定するととらえることだったのに。

浅田 日本で反知性主義批判をやってる連中を見ると「こいつらは自分が知性派のつもりだったのか」と驚くけれど(笑)、リチャード・ホフスタッターが1963年の本で言ったアメリカの反知性主義ってのは、東部アイヴィー・リーグの名門校を出たエリートたちのヨーロッパかぶれれに対し、古き良きアメリカの伝統を守ろうとする草の根保守から始まるんだよね。いまそれを吸い上げてるのがトランプだけど、「まっとうな左翼」に向かう部分もある。

他方、「アラブの春」が全体として失敗した結果、かつてない難民流入に直面したヨーロッパでも、EUのエリート主義に対し、反移民の極右勢力が着実に力を増している。フランスでは国民戦線の創始者ジャン・マリー・ル・ペンの娘のマリーヌ・ル・ペン

が、古風な極右だった父親を追い出し、ソフトなイメージで支持を広げてるし……。

田中 彼女はギリシャの国民投票で緊縮策反対が上回った時には「EUの少数独裁政治」に対する勝利だと述べた。それは実は「EUに改革が必要なのは明らかだ」「金融危機を利用して人々に過大な負担を与えた」と保守党のデーヴィッド・キャメロン首相を批判する労働党のコービンに通じるところがあるんだね。

浅田 ギリシャが国民投票でEUなんかの押し付ける緊縮策を拒否した後、ヨーロッパ議会のTV中継を聞いてたら、「ギリシャは無責任だ」と非難するオランダの議員に対し、ある女性議員が立ち上がってギリシャ国民の主権を雄弁に擁護した。ふと画面を見たら、それがマリーヌ・ル・ペン(苦笑)。ギリシャは結局は緊縮策を呑まされたわけだけだ。

田中 「人々は不平等、不公平、不必要な貧困にうんざりしている」と代表就任演説で語り、鉄道やエネルギー会社の再国有化、高所得者層への課税強化を主張する労働党のコービンと、銀行国営化や通貨フランの復活を公約に掲げる国民戦線のル・ペンは、「イデオロギー」を超えて通奏低音を奏でていて、市場経済の暴走に危機感を抱く人々から支持を集めている。

ル・ペンは人工中絶や同性愛を認める一方、今回のシリア難民問題では「ドイツは自国の人口が頭打ちだと考え、低賃金の労働力を求めて大量の移民を受け入れ、奴隷の雇用を続けている」と発言した。奴隷という単語は不用意だし、ナチス時代の反省から難民を積極的に受け入れようとするドイツ国民も多いのは確かだけど、失業の不安を抱える階層(北アフリカからフランス

への移民2世・3世も含めて)の琴線を捉えている。残念ながら日本にはコービンもル・ペンも見当たらない。「小選挙区制導入で政治家のサラリーマン化が進んだ」と大勲位・中曽根康弘が慨嘆するように、男性政治家は小粒ばかり。「保守」を気取る女性政治家も、強きを助け、弱きを挫く経済的新自由主義の走狗ばかりだもの(涙)。

話は少しそれるけど、レッセフェールの自由主義経済の信奉者でありながら、市場経済の暴走を憂慮し、社会的共通資本たる企業の評価基準には収益性のみならず地域や環境への配慮も加えよと提唱した、富士ゼロックス社長、経済同友会代表幹事を務め、先日亡くなった小林陽太郎のような複眼思考の経営者も、なかなか見当たらない日本だしね。

浅田 アンゲラ・メルケル独首相も難民危機ではヨーロッパ各国が分担しての受け入れを呼びかけた。ただ、ギリシャの債務危機で強硬すぎたために、戦後ずっと頭を低くしてきたドイツがかつてのような覇権国家に戻ったかのようなイメージが広がっちゃったね。IMFでさえギリシャの債務は削減するほかにいって言うてるんだし、小さな国で大した額じゃないんだから棒引きしてやりやいいのに。

田中 なんてできないんだらうね。ドイツ国民も反対しているから? でも、借金を棒引きすれば、ドイツへの移民流入の教も減って、結果としてドイツ国民が望む社会の安定にもつながるのにな。

浅田 国民の意思を押し切つてでもリーダーシップを発揮できる人物じゃないってことだろうな。経済に関しては「車椅子の鉄人」とも呼ばれるヴォルフガング・シヨイブレ財務相に丸投げ。シヨイブレがギリシ

ヤを一時的にユーロ圏から離脱させる案をちらつかせたため、アレクシス・ツィプラス首相は緊縮策を呑まざるを得なかった。これではドイツはEUを壊すつもりかと言われても仕方がない。敗戦の惨状から立ち上がったコンラート・アデナウアー元首相以来、ドイツはヨーロッパの融和を何よりも優先してきたんだけどね。メルケルの師匠にあたるヘルムート・コール元首相でも、ポーランドではユダヤ人の墓の前に膝まづき、終戦記念日にはかつての敵国であるフランスのフランソワ・ミッテラン元大統領と手をつないだ。メルケルは旧東ドイツで生まれ育つたからか、そもそも時代が違うからか、そこまでの歴史意識をもっていない感じ。ともあれ、日本で安倍晋三政権が歴史修正主義を唱える一方、ヨーロッパでもドイツ帝国の復活が語られるようになるってのは、困ったもんだよ。

戦後70年が経つニッポン。国家のリーダーはどうあるべき? 浅田 安倍首相の戦後70年談話については前回は話したけど、冒頭で西洋の植民地主義に触れたあと「日露戦争は、植民地支配のもとにあった、多くのアジアやアフリカ

天皇は軍の統帥権をもつ  
大元帥でもあったわけだから、  
もっと強く出てくれりや  
よかったのに。(浅田)



### 田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。  
一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。  
長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。

の人々を勇気づけました」と始まるところからして大問題。

田中 インド初代首相のジャワハルラー・ネルーが1956年に自伝で「日本のロシアに対する勝利がどれほどアジアの諸国民を喜ばせ小躍りさせたかを我々は見た」と記した文章を、「ニッポン凄じぞ論」の人々は金科玉条のごとくに引用するけど、実はその後段は「ところが、その直後の成果は少数の侵略的帝国主義諸国のグループに、もう一国を付け加えたに過ぎなかった。その苦い結果を、まず最初に舐めたのは朝鮮であった」と続くんだけ。

今回の談話に対して中国や韓国が抑制的な反応だったのは、同時に発表された英文にはweという主語が入っていたからだけど、邦文には主語がない。誰が誰に対して語っているのか判然としない。広島原爆死没者慰霊碑に刻まれている「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」と同じ轍を踏んでいる。談話に関する有識者懇談会で座長代理を務めた国際大学学長の北岡伸一が8月31日の会見で、「日本は確かに侵略をした。繰り返してはならない」と一人称で言うて欲しかった」と述べたのが物議を醸したけど、だからって「原理想義

的保守」の間では評判が悪かった今回の談話も、「植民地支配」「侵略」「反省」「お詫び」の4つの単語が入っていればOKって訳じゃない。我々だって小さな頃、ゴメンなさい、二度としませんから、と頭を下げてたて、心の中ではベロツと舌を出していたでしょ(苦笑)。大切なのは、巧言令色鮮し仁ではない、本心かどうかでしょ。

浅田 原朗の『日清・日露戦争をどう見るか』(NHK出版新書)はすごく明快で、日清・日露戦争は第一次・第二次朝鮮戦争であり、最初は中国、次はロシアと、朝鮮を取り合つたんだ、と。建前では欧米の植民地主義に抵抗するって言いつつ、本音では日本が朝鮮を取りたかっただけ。

田中 ロシアが朝鮮半島まで覇権を広げようとしたとき、当時、フランスと蜜月だったロシアの動きを警戒したイギリスがアメリカに金を出させて日本に武器や軍艦も与えたわけで、実は勝利はフロックでしかなかった側面も大きい。

浅田 高橋是清が必死になって外債を募集したとき、ロシアのユダヤ人迫害を嫌つたユダヤ系アメリカ人の投資銀行家ジェイコブ・シスが真っ先に手を挙げて買ってくれ、それが呼び水になって辛うじて戦費が調達できた。その大恩人の高橋を後に2・26事件で青年将校たちが殺しちゃうんだからねえ。

映画『日本のいちばん長い日』は岡本喜八監督版で十分なんで原田眞人監督がリメイクする必要はなかったと思うけど、戦後70年で過去を振り返るきっかけにはなかったかな。ぼくは敗戦後に天皇制を廃止すべきだったと思うけど、確かに昭和天皇には気の毒な面もある。立憲君主制で首相が上げてることにはイエスと言わざるを得ない。



何とか首相に軍部の暴走を止めさせようとするものの首相の権限が弱く、とくに軍に干渉しようとする「天皇の統帥権を干犯するの」と非難される。結局、近衛文麿も東條英機も止められない。東條は「いよいよ戦争になってしまつて陛下に申し訳ない」と泣いたらしいけど、そんな開戦って世界史上例がないよ。天皇は軍の統帥権をもつ大元帥でもあったわけだから、もっと強く出てくれりゃよかったのに。

田中 リーダーとはそうあるべきもの。国家益という空疎なメンツでなく、国民益という富国裕民の実利のために良い意味で独断専行してこそ、望ましき決断。

浅田 満州事変の3年前、関東軍の將校が謀略で張作霖を爆殺した件で、田中義一首相が原因の究明と公表を約束しておきながら軍に拒否されて断念すると言つたら、天皇は「辞表を出してはどうか」と言つた。ここで軍の暴走を強く牽制しようとした政治的センスは悪くない。ところが、そこから宮中に反軍的な陰謀があるって話が広まる。天皇を批判するかわりに「君側の奸」を批判するわけ。それで天皇と側近たちもビビっちゃうんだね。それでも天皇は2・26事件の鎮圧を命じたときや終戦を決めたときに、ある意味で一線を越えてる。その命令にもかかわらず2・26の鎮圧に3日もかかった。終戦のときは御前会議でポツダム宣言受諾派の外相と戦争継続派の陸相の対立が収まらず、そこで鈴木貫太郎首相が「結論に至りませんので恐れながら陛下のご聖断を」という掟破りに出て、天皇の介入を促すだけだね。

それにしても、どうせならもう少し早くやめられなかったのか。1944年7月にサイパン島が陥落した段階で、安倍晋三の



## 安保法案反対の国民が 総裁選の街頭演説に 大挙押し寄せる、と 周田が案じたらしい。(田中)

祖父の岸信介(軍需次官兼無任所国務大臣)は、これで本格的な本土空襲が始まるから軍需産業は持たないと言つて即時講和を要求、この閣内不一致により東條内閣は崩壊した。そこで戦争をやめてねえ。軍民の犠牲者の多くが敗戦までの最後の1年間に出てるんだから。

田中 戦後、昭和天皇本人は退位という責任の取り方も考えたのだから、それがもたらす更なる混乱というリバウンドをアメリカが憂慮した。

浅田 そう、本人が退位を覚悟してたにせよ、アメリカが温存した。皇太子はまだ子どもだったしね。

田中 その今上天皇は傘寿を迎えた一昨年「戦後、連合国軍の占領下にあった日本は、平和と民主主義を、守るべき大切なものとして、日本国憲法を作り、様々な改革を行つて今日の日本を築きました」と述べ、今年の全国戦没者追悼式でも「平和の存続を切望する国民の意識に支えられ、我が国は今日の平和と繁栄を築いてきました」。ここに過去を顧み、さきの大戦に対する深い反省と共に、今後、戦争の惨禍が再び繰り返されぬことを切に願いと述べた。

浅田 改憲という安倍の大願が安保法制と

いうインチキな形になつたのは彼にとつても国民にとつてもよくない。そんな彼を無投票で総裁に再選する自民党つてもまたどうしようもないね。野田聖子が勝つ可能性はなかったんだから、昔の自民党なら主流派が推薦人を貸してでも野田に立候補させ、形だけでも選挙をやつて盛り上げたはずだけど。

田中 安保法案反対の国民が総裁選の街頭演説に大挙押し寄せる、と周田が案じたらしい。そういう内向きな配慮は自民党にポディブローとなるのね。他方で経済同友会が「自衛隊製、体育会系、人材を毎年、一定数確保することが可能」だと、2年間の自衛隊インタナシシップ・プログラムを提案していたのが発覚したり、武器輸出を「国家戦略として推進すべきだ」と日本経団連が提言したり、いやはや。8月6日の「ウォール・ストリート・ジャーナル」紙に論説副委員長でピューリッツァー賞受賞歴もあるブレット・ステイブンスが「原爆投下を神に感謝」と題して記事を書いた。

「広島と長崎への原爆投下は単に戦争を終わらせた恐ろしい出来事ではなかった」多くの人々の命も救つたのである。原爆は大日本帝国を平和主義者の国に変えたのだ」

と。同じくアメリカの「ピュー・リサーチ・センター」の最新世論調査では「広島と長崎への原爆投下は正当化される」と56パーセントが回答した。「原爆投下を肯定」する割合が85パーセントに達していた1945年当時の「ギャラップ」社の世論調査と比較すれば減少しているものの、日米間に依然として横たわるこの数値も、ほとんどの日本のメディアは報じなかった。

浅田 さっき言ったように普通の国なら4年夏で講和に動くはず。それが、負けてるのにどんどん特攻機が飛んでくるんだから、アメリカも怖かつたんだよ。あと、フランクリン・ローズヴェルト大統領が死んで、外交経験のないハリール・トルーマン副大統領がとつぜん後を継いだつても不運だった。NHKが放送した『オリバー・ストーン』が語るもうひとつのアメリカ史』でも描かれてるように、トルーマンつてのは誰も知らない小物だったんだね。それで、科学者のみならず米軍幹部の多くも原子爆弾使用に反対だったにもかかわらず、ヨシフ・スターリンやウイinston・チャーチルにナメられないように原爆投下を命じた。と。まあ、ローズヴェルトが生きてても冷戦を見越して原爆投下に踏み切った可能性は高い。ただ、小物ほどマッチョを気取りたがるつてのは、最近の日本の例を見てもよくわかるよね。

田中 そうした一人とも言える橋下徹の相変わらずな朝令暮改な狼少年ぶりや、決壊しやすい箇所を堤防に諸外国は鋼矢板を縦に2枚打ち込む強化策を導入しているのに、土と砂以外は「不純物」だと国土交通省が「土堤原則」に固執し続けているのが鬼怒川の堤防決壊の原因だという点は次回に詳しく語ろうか。

### 浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。  
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。  
83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

